GIFU　KUNI’S COLLECTION

花き装飾コース

１．　はじめに

私は高校生の頃に生花店でのインターンシップを経験して生花店の楽しさを知り、将来は切り花を扱う仕事に就きたいと思い、園芸アカデミーに入学した。そして、様々な授業やインターンシップを経験していくうちに、私はイメージを膨らませて実際に形にすることが苦手だと感じた。卒業後はフューネラル業務を行っている企業に内定をいただいており、プランや花祭壇の形は決まっているが、花の特徴を活かして素晴らしい花を届けるということはフューネラル装花にも共通することだと思う。そのため、卒業制作では一つ一つの花束にテーマを決めて、イメージを形にするという装飾技術の向上を目指した。花の特徴を活かすという点にも注目し「GIFU　KUNI’S　COLLECTION」として取り組んだ。９つの花束の制作を行った。

２．　制作作品

（１）「夕方のアップルパイ」
（２）「大雪山に迷い込んだ春」
（３）「グランディール」
（４）「大地で踊る緑」
（５）「ルイスの路地裏」

３．　おわりに

花束の制作を繰り返していく中で担当教員から「花束を制作するときは選ぶ花一つ一つに意味がなければ、いくら美しい花でも美しさが引き出されなくなってしまう。」というアドバイスを頂き、イメージを形にするには色だけでなく花の形、質感、蕾を使うのか咲いているのを使うのかなど細かい部分にもこだわって選ぶ必要があると感じた。最初は花の特徴がわからないまま制作を行ったため、一つ一つの花が活かされておらず、何を魅せたいのか全く伝わらない花束になってしまったが、何十回も制作を行っているうちにこれは他の花よりも高く飛ばす、埋めるなど、少しずつですが花の使い方を知ることができた。作品集をまとめるにあたって、写真の撮り方やネーミング、フォントなどにもこだわった。イメージやコンセプトに合わせるために、写真を撮る際には、どこで撮るのか、何時に撮るのか、天気は晴れなのか曇りなのかと細かい部分にもこだわった。特に苦労したのは作品の題名だ。見た人がつい気になってしまうような題名がなかなか思いつかず、改めて自分のボキャブラリーや表現力の無さを実感した。今回の卒業制作を活かしお客様の要望を形にして満足していただけるような花祭壇を作れるようになりたい。オーダーメイド葬ががあった際にはこの制作を活かしていきたいと思う。

（1）「夕方のアップルパイ」

（2）「大雪山に迷い込んだ春」

（3）「グランディール」

（4）「大地で踊る緑」

（5）「ルイスの路地裏」